

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>治風剂 疏散外風剂 1</b>		
<p>だいじんぎょうとう 大秦丸湯</p>	<p>祛風清熱・養血活血</p>	<p>秦艽9g・甘草・川芎・当帰・白芍各6g・細辛1.5g・羌活・防風・黄芩各3g・石膏6g・白芷・白朮・生地黄・熟地黄・茯苓各5g・独活6g 水煎し服用する。 散にし1回30gを水煎し服用してもよい。</p>
保命集	<p>&lt;主治&gt; 風邪初中経絡 突然に発生する顔面神経麻痺、舌のこわばり、発語障害、四肢の運動麻痺など。</p> <p>&lt;病機&gt; 風邪が経絡に侵入し、気血を痺阻して生じた運動麻痺で、中経絡の初期にあたる。 正気の虚（気血衰弱）に乗じて風邪が侵入し、経絡を阻滞し気血を痺阻するために、顔面神経麻痺（口眼喎斜）が生じる。血弱で養筋できないので、舌のこわばりや発語障害あるいは四肢の運動麻痺などもみられることがある。邪の侵襲は経絡、筋脈にとどまり、臓腑には侵入しておらず、中風の軽症である。風邪による表証を伴うこともある。</p> <p>&lt;方意&gt; 祛風通絡を主体に、清熱、活血養血を配合する。 主薬は祛風して経絡を通じる秦艽で、羌活・防風は太陽経の風邪を、白芷は陽明経の風邪を、細辛・独活は少陰経の風邪をそれぞれ散じ、主薬を補佐する。補血の当帰・熟地黄、活血の川芎、斂陰養血の白芍は、養筋、活血通絡により運動障害を改善すると同時に、風薬による化燥を防止する。益気健脾の白朮・茯苓・甘草は、化源を益して養血を補佐する。清熱の黄芩・石膏・生地黄は、それぞれ上、中、下焦に作用し風邪の化熱を防止する。全体で風邪を除き気血を調和して、運動麻痺を改善する。</p> <p>&lt;参考&gt; 本方（大秦丸湯）は風薬が多く、辛燥で陰血を耗損する恐れがあるので、適宜に加減する必要がある。</p>	